



神奈川県遊技場協同組合
「児童養護施設等に『優良児童図書』贈呈」事業



神奈川県遊技場協同組合 理事長
伊坂重憲さん

安らぎや夢や希望をもたらす
図書を子どもたちに

子どもたちが欲しい本を事前に調査

2010年は、国会決議に基づく「国民読書年」だった。人類が生み出した崇高な資産ともいえる文字・活字の価値を改めて見直し、読書への意識を高めてもらおうと、国民読書年推進会議が中心となり、フォーラムやシンポジウム、イベントなどが全国各地で展開された。このような社会的動向ともタイミングが合致したのが、神奈川県遊技場協同組合(以下神遊協)によって実施された児童養護施設などへの優良児童図書贈呈事業である。

同組合では、読書体験を通じて子どもたちに精神的な安らぎを提供するとともに、将来の夢や希望につなげてほしいという願いから、県内の児童養護施設や障害児入所・通所施設などの児童福祉関連施設に、神奈川県教育委員会などが推奨する優良児童図書を寄贈することを5月に神奈川県福祉事業協会の審査会で決定した。

寄贈に先立ち、まず、施設側や子どもたちがどんな本を希望しているのかについて、神奈川県保健福祉局福祉・次世代育成部子ども家庭課や神奈川県社会福祉協議会の協力を得てアンケートを実施し、ニーズの把握に努めた。そのアンケートをもとに、県内の大手児童図書納入書店と連携し、幼児から小・中学生向けの児童図書のほか、視覚障害児向けの点字図書、さらに幼児向けの紙芝居セットなどの選定を行い、図書3,290冊、紙芝居26セット(合計450万円相当)を、神奈川県を通じて計61施設(児童養護施設35カ所、障害児施設20カ所、DV被害者支援施設6カ所)に寄贈した。

福祉ニーズを満たす継続的な社会貢献

物品支援の社会貢献活動では、本当に必要とされるものが届かないという齟齬が指摘されることがある。その原因の大半は、贈る側の固定観念や先入観なのだが、せっかくの志や行為を無駄にしないためにも、贈られる側の要望やニーズをしっかりと確認しておくことは重要なことである。その意味でも、今回、神遊協が事前に県の福祉



児童養護施設や障害児施設など計61施設に図書3,290冊、紙芝居26セットを寄贈



寄贈先の施設から贈られた子どもたちのメッセージ

機関と協力しながら、施設側の要望をしっかりと聞き出したことは有意義なことであった。

また、幼児を多く抱える施設には紙芝居セットを、視覚障害児支援施設には点字図書というように、施設の性格に細かい配慮がなされたことも、この事業の効果を高める結果となった。

贈呈式は神奈川県庁応接室で行われた。式に列席した副知事から、「子どもたちの本離れが問題となっているなか、このようにたくさんの施設に多くの本を寄贈していただけることは本当にうれしく、子どもたちにも喜んでもらえる」と、感謝されるとともに、県知事からは感謝状が贈られた。また、その模様は翌日の「神奈川新聞」に掲載された。神奈川県では、近年、県内の児童養護施設をはじめとする児童福祉関連施設全般を対象とした図書関係



幼児や視覚障害児向けなど幅広いジャンルから図書を選定しての寄贈



施設側や子どもたちがどんな本を希望しているのか事前に調査するなど、細かい配慮がなされた

の寄贈例はなく、とくに幼児や視覚障害児向けを含め、幅広いジャンルから図書を選定しての寄贈は珍しいとのこと。

神遊協は、1985年に関連業界と連携して神奈川県福祉事業協会を設立し、これまでさまざまな分野で社会貢献活動に積極的に取り組んできた。公募による福祉車両の寄贈(総数187台)、「車いす空の旅」支援(2008年都府県方面部門優秀賞受賞)、ボリショイサーカスへの招待などを中心に、継続的な社会貢献活動を展開している。そのいずれもが、神奈川県内の福祉事業にとって欠かせないものとなっており、多方面から評価、感謝されている。そうした積み重ねが、社会の福祉ニーズを的確に捉えるという姿勢にもつながっているのだろう。今後も、その継続、発展に大いに期待したい。